

日経コンピュータ・CIO養成講座 申込書

第23期 開催日程 ▶ **2017年 11/16 (木)・12/6 (水)**
2018年 1/19 (金)・2/8 (木)・3/9 (金) [全5回]

受講料

5回コース **229,000円**(消費税込み) 定員48名
 11月2日(木)までにお申し込みいただくと、上記金額から10,000円引きとなります。

早期申込割引価格 **219,000円**(消費税込み)

<受講料に含まれる内容>

オリジナルテキスト / 参考書籍「教えてドロッカー、働く私はITでどこまで伸びるの?」(日経BP社) / 「ドロッカー名義集 マネジメント[上]」(P.F.ドロッカー著、上田 博生訳、ダイヤモンド社) / 昼食代

お申し込みについて

下記申込欄に必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。後日、受講券と請求書をお送りします。

- ※ 受講料は開催日(受講開始)前日までに振り込みください。お申し込み後のキャンセル、ご送金後の返金はお受けいたしかねます。代理の方が出席くださいますようお願いいたします。
- ※ 主催者、講師等の諸般の事情により、また最少開催人員(15名)に達しない場合、開催を中止させていただく場合があります。予めご了承ください。
- ※ 下記にご記入いただいた情報に不明な箇所があった場合等、確認のためにe-mail・電話等での連絡をさせていただく場合がございます。
- ※ 本講座は自社のIT部門の能力強化をねらいとしています。講師企業と競合すると考えられる製品やサービスなどをご提供される会社の方や講座のねらいと異なる動機(営業目的、受講者情報や研修ノウハウの取得など)をお持ちの方は、受講開始前、受講開始後を問わず、主催者の判断に基づき受講をお断りさせていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ※ 会場までの交通費や宿泊費は、受講される方の負担となります。
- ※ 講師の急病、天災その他の不可抗力、又はその他やむを得ない理由により、講座を中止する場合があります。この場合、未受講の講座の料金は返金いたします。また弊社からの受講お断りによる未受講分の料金も返金いたします。複数回連続して開催する講座の場合は、全体の開催回数の中で、中止および受講をお断りした講座の回数分を回数による均等割で返金します。

会場

日経BP社(日経虎ノ門別館) ほか
 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12
 最寄り駅 東京メトロ日比谷線「神谷町」駅より徒歩5分
 東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅より徒歩7分



※会場は変更になる場合がございます。その際は、受講者に別途ご連絡いたします。

お問い合わせ先

日経BP社読者サービスセンター TEL:0120-255-255 (土日祝日を除く、9:00~17:00) FAX:03-5696-1139
 セミナー係 http://nkbp.jp/ncs171116 (携帯電話・PHSからは 03-5696-1111)

下記の必要事項をご記入の上、このままお送りください。

<FAX申込締切 11月9日(木)まで>

フリガナ _____

受講者名 _____

フリガナ _____

会社名 _____ ※正式名称をご記入ください。

部署・役職名 _____

〒 _____

住所 _____

会社所在地 TEL. _____ FAX. _____

e-mail: _____

恐れいりますが、下欄の業種・部署・役職区分の番号に1つずつ○をお付けください。

0. 製造業-消費財	5. ホテル・レジャーサービス	0. 総務・庶務	5. マーケティング	10. 研究開発	0. 経営幹部	5. 専門職
1. 製造業-生産財	6. 金融・保険業	1. 人事・労務	6. 広報・宣伝	11. 情報システム	1. 監査役	9. その他 (個人含む)
2. 卸・小売業	7. 建設・不動産	2. 経理・財務	7. 秘書	12. 国際・貿易	2. 部長・支店長	
3. 輸送業	8. コンピューター・情報処理業	3. 経営企画	8. 物流・輸送	13. 法務	3. 課長・係長	
4. 外食	9. その他	4. 営業・販売	9. 生産・工場	99. その他	4. 一般	

※ご記入いただいた住所やE-Mailアドレスなどは、日経BP社からの事務連絡にも使わせていただきます。尚、これ以外に日経BP社および日経BPグループ会社から、各種ご案内(刊行物、展示会、セミナー等)やアンケート、広告主等の製品やサービスのご案内をさせていただきます。[個人情報取得に関するご説明](http://www.nikkeibp.co.jp/p8.html)をお読みいただき、ご同意の上お申し込みください。

ありがとうございました。

申し込み順ですので、お早めにご関係の部・課へご回覧ください。 → <http://nkbp.jp/ncs171116>

日経コンピュータ CIO (最高情報責任者) 養成講座

現役CIO・経営者を支えるCIOチームを構築
 IT未経験者も基礎から上級まで無理なく体系的に学べる

全5回 **2017年 11/16 (木)・12/6 (水)**
2018年 1/19 (金)・2/8 (木)・3/9 (金)

会場:日経BP社(日経虎ノ門別館) ※会場は変更になる場合がございます。

講師:森岡 謙仁氏(経営・ものづくり・ITアドバイザー、アーステミア代表取締役社長)

◆主催:日経コンピュータ

業種不問

製造業やサービス業から官公庁・自治体まで、業種を問わず活用できる!

年齢性別不問

幅広い年代の様々なキャリアの男女ビジネスパーソンが参加! IT未経験者も安心して学べる。

卒業生多数

修了者は累計800名超! リピーター企業が半数以上、各界で活躍するOB・OGを多数輩出。

\おかげさまで/
第23期 開講!
 続々と受講者の声が届いています!
 中面をご覧ください。

講師からのメッセージ —ビッグデータ、IoT、AI時代を実力で勝ち抜く、CIOの新たな役割—

いま日本企業は、グローバルな競合激化、国内市場の縮小、少子高齢化の進展、業界再編、企業統治改革、働き方改革、環境対策、国際会計基準への対応など、かつてない難題に直面しています。これらは日本にある外資系企業も例外ではありません。

このような時代は、経営者の一員であるCIO(最高情報責任者)にも新たな役割を要求します。第1は、IT(ロボット含む)を活用した新たなビジネスモデルの構築、第2はビッグデータやAIを活用したマーケティング強化、第3は、新製品・新サービス開発、業務改革などのイノベーションの強化、第4は、従業員の情報リテラシーの強化とグローバル化の推進です。

まさに、システムと情報活用の優劣が企業価値や永続企業を決定する時代であり、経営者を支えITと経営の勘所がわかるCIO(またはその候補やチーム)の存在が不可欠なのです。グローバルスタンダードや教科書だけでは学ぶことができない実務的な視点で構成されている本講座の受講をおすすめいたします。

日経コンピュータ・CIO養成講座講師 **森岡 謙仁**

本講座のコンセプト —ITで稼ぐ、マーケティング、イノベーション、人材育成で経営者を支えるCIOを育成— ~ 経営者を支えて企業価値を高めるCIOの位置づけとマネジメントフレーム ~

経営目標 / ビジネスモデル / 情報戦略 / コンプライアンス

マネジメント組織

本講座で取り上げる国際規格などの主なもの

事業継続管理(BCM) / 国際会計基準(IFRS) / CMM / 経営品質 / 内部統制 / ISO9001, 10006, 20000, 27001, 26000, 9004 / ISMS / ITSS, UISS, ETSS / COBIT / PMBOK / ITIL / EA / プログラムマネジメント / ITスコアカード / マネジメントスコアカード(MSC) / BSC

マネジメント手法

ITマネジメント講座体系(受講後の目標人材)

ITマネジメント講座体系(受講後の目標人材)

本講座の特徴 CIOとその候補者に必要な知識・ノウハウを基礎から上級まで体系的に学べる

- 1. IT経営の最新情報とベストプラクティスを基礎から体系的に習得**
 グローバルスタンダードの本質と最新の動向を読み解き、IT経営を推進する具体策を学びます。
- 2. 多彩なゲストの体験談や講演で深い理解**
 現役のCIOはじめ本講座受講修了者やマネジメントの専門家が現実の取組みと本音を語ります。
- 3. グループ討議で気づきを得ると同時に、実務の勘所を体得**
 具体的なビジネスシーンを題材にしたグループ討議で確実な理解と応用力や実践力を身に付けます。
- 4. 講師とのメールや個別相談により確実に理解**
 講座期間中であれば、森岡講師とのメールや個別相談による質疑応答が自由に出来ます。
- 5. 本講座で使用するテンプレートをデジタルデータで提供**
 本講座で使用するIT満足度調査シート、IT企画チェック・評価シート、プロジェクトポートフォリオ、システム変更管理シートなどのテンプレートをデジタルデータで提供。学んだことがすぐに実務で活用できます。

経営者に信頼されるCIOの能力養成

中・上級編	第5回	全社業務改革を推進するプログラムマネジメントの進め方
	第4回	革新的ビジネスモデルを実現する情報戦略の進め方
	第3回	内部統制・セキュリティ課題とITガバナンス構築の進め方
基礎編	第2回	情報システムプロジェクトのリスクマネジメントの進め方
	第1回	CIOの役割と経営成果を実現する情報システム企画の進め方

全5回の体系化されたコース

CIOのキャリアパス

※本講座の受講者で一定の出席率の方には「CIO養成講座受講修了証」を発行いたします。

第1回

CIOの役割と経営成果を実現する情報システム企画の進め方

～内外のニーズを的確に把握し、ムダなIT投資はしない～

11月16日(木) 10:00～17:00(開場9:30)
12:30～13:30(昼休み)

1章 経営環境の変化とCIOの役割

- (1) グローバル化と国内市場および競争環境の変化
- (2) IT環境の変化
- (3) 経営課題および経営手法の変化
- (4) CIOの役割と責任

2章 情報システム投資の満足度調査

- (1) 情報システム投資の満足度調査とは
- (2) 範囲と対象(経営幹部、管理者、担当者など)
- (3) 調査内容と評価視点
- (4) 実施手順と調査シートの例(経営者・幹部)用

3章 現場調査とヒアリングの進め方

- (1) 現場調査とヒアリングの手順と実施体制
- (2) システム思考と構造化分析
- (3) ワークフローとプロセス分析
- (4) 「業務」を構成する要素(仕事の3要素)

4章 現状分析と根本原因の分析

- (1) 資料のとりまとめ
- (2) 問題点の洗い出し
- (3) 根本原因の分析

5章 ROIなど投資採算性の示し方

- (1) 投資効果とROI
- (2) 「効果」と「期待利益」の予測
- (3) 投資対効果と採算性の比較
- (4) 投資対効果の多様な表現方法

6章 情報システム企画書(個別情報システム)とその評価

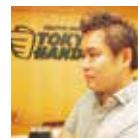
- (1) 情報システム企画書の内容と作成手順
- (2) 業務モデルと情報システムモデルの検討
- (3) システム化方針とシステム構成の検討
- (4) 情報システム企画書の評価と決裁



個人演習

1. ワークフローとプロセス分析
2. 原因の明確化
3. 期待利益の予測
4. 投資採算性の比較

<ゲストトーク> 15:15～16:15



東急ハンズ
執行役員 オムニチャネル推進部長
兼 ハンズラボ 代表取締役社長
長谷川 秀樹

テーマ:「デジタル時代にIT部門がなすべきこと」

デジタル時代の到来でCIOやIT部門は従来の業務に加え、事業サイドの新たなIT活用を支援する役割も求められる。そんな頼れる存在になるための道筋を示す。

第2回

情報システムプロジェクトのリスクマネジメントの進め方

～ITプロジェクトのリスクマネジメントを的確に行う～

12月6日(水) 10:00～17:00(開場9:30)
12:30～13:30(昼休み)

1章 IT(情報システム)プロジェクトの特異性

- (1) グローバルスタンダード(PMBOK(TM)、ISO10006など)
- (2) プロジェクトマネージャーの役割と責任
- (3) 作業報告書とリスクマネジメント

2章 プロジェクト計画とリスクマネジメント

- (1) プロジェクト計画書の内容
- (2) 推進体制とメンバーの役割と責任
- (3) モニタリングとコントロールの計画
- (4) リスク予測とその対応策

3章 提案依頼書(RFP)とその評価

- (1) システム要件の取りまとめ手順(NDA,RFIなど)
- (2) 提案依頼書(RFP)の内容と評価
- (3) 提案依頼書作成におけるリスクマネジメント

4章 アウトソーシングとベンダーマネジメント

- (1) 提案依頼と提案比較の進め方
- (2) 外部委託の形態と契約(SLAなど)
- (3) 発注契約におけるリスクマネジメント

5章 システム基本設計段階のリスクマネジメント

- (1) システム基本設計の進め方
- (2) プロトタイピングと要件定義
- (3) システム基本設計におけるリスクマネジメント

6章 システム構築と製品テスト段階のリスクマネジメント

- (1) システム構築過程のリスクマネジメント
- (2) システム・製品テスト段階のリスクマネジメント

7章 本稼働から最終検収段階までのリスクマネジメント

- (1) 本稼働までの手順とリスクマネジメント
- (2) 受入検収の進め方
- (3) 最終検収段階のリスクマネジメント

ケーススタディ

1. 見積比較と選定
2. 基本設計とリスクマネジメント
3. 本稼働までのリスクマネジメント
4. 最終検収段階のリスクマネジメント

<ゲストトーク> 15:15～16:15



日経コンピュータ 編集委員
木村 岳史

テーマ:「極言暴論ライブ、用済みとなるIT部門」

デジタルを担うのは新たなデジタル組織。多くの企業で本業のデジタル化が進む今、IT部門の存在意義が問われている。極言暴論の著者が舌鋒鋭くIT部門の問題を指摘。

第3回

内部統制・セキュリティ課題とITガバナンス構築の進め方

～ITコンプライアンスを含むマネジメントフレームを構築する～

1月19日(金) 10:00～17:00(開場9:30)
12:30～13:30(昼休み)

1章 IT内部統制とその要求事項

- (1) IT内部統制の評価と優先策
- (2) IT内部統制の実務フレームワーク(文書化など)
- (3) 情報事故とシステム監査の要求事項

2章 ITガバナンス・セルフアセスメントの実施

- (1) ITガバナンスと情報化の成熟度
- (2) アセスメントの内容
- (3) 実施の手順と評価
- (4) セルフアセスメントの演習

3章 ITガバナンスの実務

- (1) COBITフレーム
●ガバナンスとマネジメントの有機的連携
●COBIT5「プロセス参照モデル」管理活動
- (2) ITIL適用の勘所
- (3) ベンダーに対するIT統制の勘所

4章 ITにおけるBCM(事業継続管理)対策

- (1) ITにおけるBCM対策の基本
- (2) 見直しのポイント

5章 情報セキュリティマネジメントシステムの構築

- (1) ISMSの確立
- (2) セキュリティポリシー(情報管理規定)の策定
- (3) リスクアセスメントと管理策
- (4) 個人情報保護法対策の見直しのポイント
- (5) マインナンバー制度のポイント

6章 IT内部統制のマネジメントフレームワーク

- (1) 全社的な内部統制の有効性
- (2) IT内部統制組織と統制活動の全体像
- (3) モニタリング基盤の構築

ワークショップ

1. ITプロセス統制の優先策
2. IT内部統制組織の設計
3. 発表と討議、講評



<ゲストトーク> 15:15～16:15



日本発条
執行役員
企画管理本部 情報システム部 部長
講師 **鈴木 潤一氏**
第12期CIO養成講座・第3期MGL養成講座修了者

テーマ:「わが社のIT活用と課題」(仮)

- わが社のIT活用の現状と課題
- CIO養成講座で学んだことの実践

●CIOとしてあるべき姿、知識など、IT部門の全体像が見えてきました。今後、自社で展開していきます。

- 今まで、体系化された知識も指針も無く進んでいたのですが、これからは、自信を持って取り組みそうです。
- CIOの役割の重さを思い知らされました。

第4回

革新的ビジネスモデルを実現する情報戦略の進め方

～マーケティング力を発揮し永続的な企業価値を創造する～

2月8日(木) 10:00～17:00(開場9:30)
12:30～13:30(昼休み)

1章 CIOに必要なマーケティング力

- (1) IT部門とITサービスの位置づけ
- (2) CIOが行うマーケティングとは
- (3) 事業領域(ドメイン)と顧客認識

2章 革新的ビジネスモデルとは

- (1) 経営管理のベストプラクティス
- (2) 「革新的ビジネスモデル」とは
●ドラッカー「マネジメント」の要点
(社会的責任、顧客創造、マネジメントスコアカード)
- (3) 革新的ビジネスモデルとIT
- (4) グローバル企業とIT

3章 情報戦略企画書

- (1) 情報戦略企画書の内容
- (2) 業務モデルと情報システムモデル
- (3) ITアーキテクチャとEA
- (4) アウトソーシングの形態
- (5) コンプライアンスと情報セキュリティ
- (6) 情報投資と効果予測

4章「ユーザー主導で進める」情報戦略の実現

- (1) 情報戦略の実現手順
- (2) ユーザー主導型プロジェクト管理
●KPIの例
(品質・進捗・原価管理、アウトソーシング管理、リスク管理等)
- (3) 利用環境整備および情報システム導入段階
- (4) 本稼働段階

5章 ビジネスモデルと情報戦略の定着

- (1) 情報リテラシーの向上
- (2) ビジネスモデル定着のための役割

6章 ビジネスモデルと情報戦略の評価

- (1) ビジネスモデルの評価
- (2) 情報戦略評価の考え方(ITスコアカード等)
- (3) フィードバックと継続的な発展

ワークショップ

1. 情報戦略テーマの策定
2. 情報システム部門のマネジメントスコアカードの作成
3. 発表と討議、講評

<ゲストトーク> 15:15～16:15



総務省
行政管理局 情報システム管理担当
講師 **山本 寛繁氏**
第6期CIO養成講座修了者

テーマ:「日本政府におけるITガバナンスの強化」

- ITガバナンスの標準ルール
- CIO養成講座で学んだことの実践
- 現状と今後の展開

●ゲストスピーカーも素晴らしい。講義の内容も良く、情報システムに携わる人は皆、受講して欲しい。

- 国際標準の知識体系をベースに、ポイントを絞った説明があり、たいへん有意義な講座だと思えます。
- 森岡先生のように講義後のフォローも丁寧に行っていただけの講座は大歓迎です。

第5回

全社業務改革を推進するプログラムマネジメントの進め方

～経営者を支えてIT経営を推進する～

3月9日(金) 10:00～17:00(開場9:30)
12:30～13:30(昼休み)

1章 プログラムマネジメントの知識

- (1) プログラムマネジメントとは
- (2) プロジェクトの有機的連携とプログラム基盤

2章 プログラムマネジメントの進め方

- (1) プログラム統合マネジメント
- (2) プロファイリングマネジメント
- (3) プラットフォームマネジメント 等

3章 業務改革プログラムマネジメント

- (1) ベストプラクティスとベンチマーキング
- (2) 業務改革プロジェクトへのPMBOK(TM)の適用
- (3) 業務改革プログラムの監視と統制

4章 全社業務改革プログラムの実務

- (1) 全社業務改革プログラムの内容
- (2) シナリオと進め方
- (3) 全社業務改革プログラムの評価

5章 社員教育プログラムと人事システムの革新

- (1) 人材開発ビジョンとナレッジマネジメント
- (2) 社員教育プログラムの内容(IT部門、一般部門、カリキュラム)
- (3) 教育とIT活用及び効果測定
- (4) 人事システムの変革

まとめ

IT経営を推進するCIOの役割と責任

個人演習

<演習1:プログラムマネジメント>

- 全社目標の明確化とシナリオ作成

<演習2:モニタリングとコントロール>

- ITプロジェクトと業務改革プロジェクト

<演習3:教育計画の作成>

- カリキュラムと社員教育プログラム

ワークショップ

1. プロジェクトポートフォリオの作成
●重要プロジェクトとポートフォリオ項目の設定
2. 発表と討議、講評

<ゲストトーク> 15:15～16:15



ドラッカー学会理事
クリエイティブ パートナース 代表取締役
講師 **藤島 秀記氏**

テーマ:「ドラッカー・マネジメントの展開」

- P.F.ドラッカー:20世紀に生き21世紀を構想
- 企業存在意義
- マネジメントの目的と根本原理
- ドラッカーの企業に対する問いかけ「事業の定義」
- 経営革新とは、イノベーションと顧客創造活動

●500社を超える企業・組織からご受講をいただいております

製造業(食品、日用雑貨、化粧品、医薬品、化成品、時計、書籍、事務用品、飲料、玩具、家電、アパレル、船舶、重機、自動車、建築資材、工業資材、化成原料、機械工具、パネ、自動車部品、電子電気部品、医療機器など)、プラント建設、建設、不動産、教育産業、旅行、卸売(食品、資材、書籍雑誌など)、小売(百貨店、スーパー、ドラッグストア、ファッション、専門店チェーン、ホームセンター、自動車用品)、病院、介護施設、調剤薬局、印刷業、金融(銀行、信用金庫、生命保険、損害・火災保険、ネットバンキング、証券)、社会基盤(ガス、水道、電気、通信、石油、ガソリンスタンド)、陸運(車両、鉄道、小口配送)、海運、航空、測量、商社、飲食サービス、アミューズメント、イベント、駐車場、映画製作・配給、各種レンタル、リサイクル、通信販売、官公庁、自治体、大学・研究機関、各種公益団体(財団、社団、NPO) など

講師紹介



森岡 謙仁氏

(もりおかけんじ)

経営・ものづくりITアドバイザー/
アースメディア(有) 代表取締役社長

精密機械メーカーの品質管理部門、独立系コンピュータディーラーの取締役などを経て、1992年より現職。企業経営実務と情報システムの両面に明るく、経営管理手法と情報システム技術を一体とした経営革新、情報システム部門の変革、マーケティング・営業革新、システム投資計画策定、業務改革プロジェクト及びプログラムマネジメント、新商品開発、新事業開発など、上場企業から中堅企業を対象とした助言・指導および教育で多くの実績をもつ。

また、現役のCIOを支えるとともに全社IT組織及び全社ITガバナンスの構築と改善のための助言・指導、情報システム部門の若手人材や中堅社員、経営管理者の育成にも活躍中。

[担当講座]

- MGL(マネジメントリーダー)養成講座
- IT部門の課長とその候補・PMOのキャリア開発講座
- 若手と中堅社員のための業務改革リーダー養成講座
- IT部門の若手のための実践トレーニング ほか

[主な著書等]

「教えてドラッカー 働く私ITでどこまで伸びる?」(日経BP社)、「図解ドラッカー入門」、「バランススコアカードで会社を強くする手順」、「驚くほど利益が上がる業務改革の成功手順」以上(KADOKAWA/中経出版)、「情報システム部ムダとりマニュアル」、「ドラッカーの実践! MOT(技術経営)リーダーのマネジメントスキルアップとテンプレート集」監修共著 以上(新技術開発センター) ほか

「CIOへの道」ITpro Watcher 連載(日経BP社)、「IT経営川柳」経営とITサイト連載(日経BP社)、「MOTリーダーの条件」 「MOTリーダーの仕事」連載(新技術開発センター)、「CIOチェックシート」日経情報ストラテジー連載(日経BP社) ほか

本講座を受講していただきたい方・講座で習得を目指すもの

情報システム部門、情報企画部門、経営企画部門、内部監査部門、管理部門、業務改革推進部門の方で、以下のような悩みがある方。

- 経営者が納得する情報戦略企画書をつくるだけでなく経営者の視点で評価したい。
- IT投資のムダを省き現有システムリソースの有効活用を推進したい。
- ITに関わる最新知識を習得したい。
- 国際会計基準やグローバルスタンダードなどの特徴や動向を知りたい。
- 企業価値を高める有効なIT投資(ROI含む)の基礎と応用実務を学びたい。
- ITに関するBCM(事業継続管理)対策を見直したい。
- 全社ITガバナンスやIT統制、内部監査に対応する具体策を習得したい。
- 全社的な情報セキュリティの管理体制を構築したい。
- 情報事故やITトラブルの未然防止や事後対策を知りたい。
- 全社業務改革を推進するためのノウハウを知りたい。
- 情報システム部門の人材育成に自信を持ちたい。
- ITベンダーやコンサルタントを上手く使いたい。
- ITプロジェクトのリスク管理および監視と統制力を身につけたい。
- 情報戦略の立案から実現及び評価までのノウハウを知りたい。
- 新たに情報システム部門を任せられたが何をしたら良いのか悩んでいる。

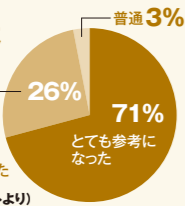
お断り

セミナーの録音・撮影、講義中やグループ演習中の携帯電話、スマートフォン、PC、タブレットなどの情報端末のご使用などはご遠慮ください。プログラム内容は、事情により変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

受講者満足度は
97%!*

多くの企業様に
リピート受講して
いただいています。

(第12~21期受講者アンケートより)



【これまでの受講者の声】

- CIOとしてやるべきことの全体が俯瞰できました。また、どこに力点を置くべきかの勘所を教えていただき、今後の実践の場においてとても役に立つものと思います。
- テキストが非常に充実しており、実際にすぐ活用可能な内容で参加してよかったと思います。

- 講義、演習、外部講師の講演と盛りだくさんで大変充実した講座だと感じています。
- CIOに求められる基礎的な知識について学べるとともに、ゲストスピーカーによる実務の講話を聴くことができ、大変参考になりました。今後に向けて強い動機付けができました。